講義科目名称: 建築材料1 A2-D11-30 科目コード: 20040

英文科目名称: Building Materials 1

| 開講期間 | | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | | |
|----------------|----------------------------------|---|---|---|--|--|
| 2年前期 | | 2 | 2 | 必修(教職必修 | | |
| 担当教員 | | <u> - </u> | | 12 (3\(\frac{1}{2}\)\(\frac{1}{2}\)\(\frac{1}{2}\) | , | |
| E RIDENGAOQIER | | | | | | |
| L KIDLNOAOQILK | | | | | | |
| 添付ファイル | | | | | | |
| が行うテイル | | | | | | |
| | T | | | | | |
| 講義概要 | 性能は十分ま建築物を全特性である。・本講義で | に発揮されなえて建築材料画、設計、施を十分に把握は、種々の建 | い。また、近年、 を選定することが 工し、それを長く し、その特性に合 築材料のうち構造 | 省資源化、廃棄物排 ジ求められるようになっ (使い続けるようにすっ (さった条件で建築物に) もの材料(木材、鋼材 | い分けられていないと、その建築物の品質や 出抑制、カーボンニュートラルなどの社会的 った。持続可能な社会を構築するため質の高い る、すなわち長寿命化するには、建築材料の 適用すること、すなわち「材料設計」が不可欠 材、コンクリート、免震・制振材料)を取り | |
| | 「建築材料 構造材料の 「建築施工 ・なお、本 | 1」の内容を理 諸性状につい 」につながる | 関解することで、 て実験を行う「ホ うえ、建築設計誌 トレプレナーシッ | 主に仕上げ系材料を扱 オ料実験」、さらには、 果題に対して、的確にホ | などを習得することを最終ゴールとする。 : う「建築材料2」、「建築材料1」で扱った 、これらの材料を実際の建築物に適用する 材料を選定できる眼を養うことが可能になる。 報収集力」、「創造性」、「判断力」、「探究 | |
| 授業計画 | 1 | ガイダンス | | las to the fate I take to the control of | Interpret Tale Inter 1 and 1 | |
| | | 能に対する 料実験の 含む)、詞 | 5考え方、適材適 関連性についても 講義に対する臨み 51回の講義までに | 所の使い方について説 解説する。これから学 方、各回の講義で紹介 | とその概要、建築材料に対する要求性能、各種性 説明する。また、建築材料1、建築材料2および材 ぶ「建築材料」の全体概要(材料実験までを する材料について理解する(AL1)。 建築材料1で扱う各種材料について概要を把握 | |
| | | 【ゴール】 | 構造材料の種類 | 、役割、材料に対する | 要求性能などの理解 | |
| | 2 | の選択(遺 | 斗の種類・分類、 | 開発、材料の製造に~ | 質、化学的性質、耐久性を含む)と性能、材料 ついて解説する。本講義によって、建築材料に | |
| | | (1時間) | 0 | | か、その種類と特徴について概略を把握する 規格・基準などの概要の理解 | |
| | 3 | 木材1 ・住宅なと 枯渇や林美 | ごで多用される木 きが抱える問題、 | 材に関して、木材の種 製材方法(伐採、集積 | i類、木材に利用される樹種、JAS規格、森林資源 、乾燥、加工)、木材の組織構造と特性、木材 | |
| | | の保存なと | ごについて解説す | る。本講義によって、 | 木材を取り巻く環境と木材の基本的性質を理解 F徴について概略を把握する(1時間)。 | |
| | 4 | 【ゴール】 木材 2 | 木材を取り巻く | 環境、木材の種類、採 | 発取・製材方法、組織構造などの理解 | |
| | | 含水率、素 よって、オ 【予習】 ま (1時間) | 熱的性質など)、 <材の基本的物性 数科書p.26~34を 。 | 化学的性質、耐久性、 とそれに応じた用途に 読み、構造材料として | ・辺材、断面形状、物理的性質(密度、吸水率 用途、適用箇所について解説する。本講義に こついて理解する(AL1)。 の木材の種類と特徴について概略を把握する (物理的性質、耐久性)、用途、適用方法などの | |
| | 5 | 理解 木材 3 | | | 、これら木質系材料の種類、JIS等の規格、製造 | |
| | | 方装にに深め習るようでは、よこのとのできます。 | -カー、諸性質(こ、集成材とCLTの 5木質系材料のサ (AL1)。 枚科書p. 35~37、 うになった木材の 集成材やCLTなと | 力学的性質、耐久性な)基本的性質とこれらっ ンプルを回覧するので i-Learnにアップする! 特徴について概略を把 | (ど)、用途、適用事例について解説する。本講 木質材料の的確な使用法を理解する。また、講義 、手に触れたりすることで、これら材料の理解 講義用資料を読み、集成材やCLTなど近年多用 | |
| | 6 | 製法、鉄針 解説する。 【予習】 を把握する | 建築物などで用い 岡の諸性質(その 本講義によって 女科書p. 45~52、 5 (1時間)。 | 他の金属材料との比較 、鉄鋼の基本的特性と 60~61を読み、鉄鋼(| 鉄鋼と建築の関わり、鉄鋼の歴史、鉄鋼の を:機械的性質など)、適用条件、用途について 使用法を理解する (AL1)。 (形鋼、鋼板を含む)の種類と特徴について概略 」な性質とその適用方法の理解 | |

| 7 | 鋼材2 ・建築構造用鋼材(鉄鋼)のうち、鉄筋やPC鋼線といった線材に関して、鋼材の種類、JIS規格、鋼材の諸性質(機械的性質など)、建築物における役割、適用条件、用途について解説する。本講義によって、鉄筋やPC鋼線の基本的性質と使用法を理解し、鉄筋コンクリート造建築物の構造設計に活用できるようにする(AL1)。 【予習】教科書p.52~53、i-Learnにアップする講義用資料を読み、鉄筋やPC鋼線などの線材の種類と特徴について概略を把握する(1時間)。 |
|----|---|
| 8 | 【ゴール】鉄鋼(主に線材)の種類、規格、各種製品の基本的な性質とその適用方法の理解 鋼材 3 |
| | ・建築構造用鋼材(鉄鋼)のうち、H型鋼、アングル鋼、チャンネル鋼といった面材に関して、これら鋼材の種類、JIS規格、鋼材の諸性質(断面性能、機械的性質など)、建築物における役割、適用条件、用途について解説する。本講義によって、H型鋼などの面材の基本的性質と使用法を理解し、鉄骨造建築物の構造設計に活用できるようにする(AL1、AL4)。 【予習】教科書p. 48~50、p. 55~56を読み、鉄鋼のうち各種面材の種類と特徴について概略を把握する(1時間)。 |
| 9 | 【ゴール】鉄鋼(主に面材)の種類、規格、各種製品の基本的な性質とその適用方法の理解 コンクリート1 |
| | ・建築物に不可欠なコンクリートに関して、コンクリートと建築の関わり、セメントとコンクリートの歴史について解説する。また、コンクリートの基本構成材料の一つであるセメントに関して、その種類、JIS規格、役割、製造方法、化学的性質、物理的性質、適用条件などについて解説する。本講義によって、セメントの基本的性質を理解し、コンクリートの調合設計を行うための基礎を習得する(AL1)。 【予習】教科書p.63~65、p.78~80を読み、コンクリートとその主要構成材料であるセメントの種類と特徴について概略を把握する(1時間)。 【ゴール】コンクリートの種類と基本的性質およびセメントの種類と基本的性質の理解 |
| 10 | コンクリート 2 ・コンクリートの構成材料で、その体積の約70%を占める骨材、およびセメントの水和反応など に不可欠な練混ぜ水を取り上げる。骨材に関して、粗骨材・細骨材の種類、JIS規格、役割、諸性 |
| | 質(密度、単位容積質量、実積率、粗粒率、吸水率など)、試験方法について解説する。また、練混ぜ水について、役割、制限値などについて解説する。本講義によって、骨材と練混ぜ水の基本を理解し、コンクリートの調合設計を行うための基礎を習得する(AL1)。 【予習】教科書p.81~84を読み、コンクリート用材料である骨材の種類と特徴、および練混ぜ水について概略を把握する(1時間)。 【ゴール】骨材の種類と基本的な物性とそれを得るための試験、基本物性がコンクリートの性能・品質に及ぼす影響、練混ぜ水の役割などの理解 |
| | コンクリート3 ・コンリートに用いられる化学混和剤(液体)と混和材(粉体)に関して、その種類、JIS規格、 役割、諸性質、試験方法について解説する。化学混和剤・混和材については、AE減水剤、高性能 |
| 12 | AE減水剤だけでなく、ひび割れ低減対策として最近使用量が増えてきた収縮低減剤や膨張材などについても、その性質と使用条件に触れる。本講義によって、化学混和剤・混和材の基本を理解し、コンクリートの調合設計のための基礎を習得する(AL1)。 【予習】教科書p.84~87を読み、化学混和剤と混和材の種類、役割および特徴について概略を把握する(1時間)。 【ゴール】化学混和剤と混和剤の種類、規格、諸性質、試験方法などの理解コンクリート4 |
| | ・本講義のコンクリート1~3で解説した各材料によるコンクリートの調合設計の手順を解説する。また、コンクリート製造工場(生コン工場)における製造方法、フレッシュコンクリートの性質(スランプ、空気量、温度、塩化物量)と試験方法についても解説する。本講義によって、材料実験で行うコンクリートの調合計算ができる技量およびコンクリートの受入れ検査の方法を習得する(AL1、AL6)。 【予習】教科書p. 65~69、p. 88~92を読み、コンクリートの調合設計の概要について把握する(1時間)。 【ゴール】コンクリートの調合設計の流れと計算方法の理解、調合設計課題に対する解答作成 |
| 13 | コンクリート5 ・練り混ぜたコンクリートが硬化した後の諸性質について解説する。とりわけ、コンクリートの |
| 14 | 基本特性である強度性状(圧縮強度、引張強度、ヤング係数、クリープ、応力-ひずみ曲線)と 熱的性質について解説する。本講義によって、硬化コンクリートの基本を習得する(AL1)。 【予習】教科書p.69~77、p.93~94を読み、硬化したコンクリートの諸性質(力学的性状、熱的性質など)について概略を把握する(1時間)。 【ゴール】硬化コンクリートの諸性質についての理解 コンクリート6 |
| | ・硬化後のコンクリートの耐久性について解説する。ここで取り上げる耐久性とは、乾燥収縮 (長さ変化率)、中性化、塩害(鉄筋腐食)、アルカリシリカ反応、凍害(凍結融解の繰返 し)、化学的侵食であり、これらの性質を理解することで、建築物の劣化調査・耐久性調査を 行う際の基本を習得する。また、コンクリートのリサイクルおよびコンクリート二次製品 (プレ キャストコンクリート製品など)についても解説する(AL1)。 【予習】教科書p.95~100を読み、コンクリートの劣化の発生要因と現象、コンクリートのリサイクルおよびコンクリート二次製品などについて概略を把握する(1時間)。 |
| 15 | 【ゴール】コンクリートの劣化要因と劣化現象、劣化調査、耐久性確保の手法などの理解免震・制震材料 ・新築の建築物のみならず既存建築物の耐震補強工事(免震レトロフィット)などに使用される免震・制震材料に関して、その種類(免震ゴム、制震ダンパー、すべり支承など)、各材料の構成、原理、性能、適用条件、適用事例について解説する。本講義によって、免震・制震構造の基礎を習得する(AL1)。 【予習】教科書p. 197~200を読み、免震材料と制振材料の種類と特徴について概略を把握する(1時間)。 |
| 16 | 【ゴール】免震材料と制振材料の種類、構成、原理、性能、用途、適用方法などの理解 期末試験 |
| | ・講義内容から出題する期末試験を実施する。期末試験では、各々の材料はどのようなものか、 各材料にはどのような特性や規格があり、どのような箇所に適用可能かなどについて問う。 |

| 授業形態 | ・説明用資料(パワーポイント)による講義形式 ・アクティブラーニング:AL1:15回、AL2:0、AL0回:0回、AL4:1回、AL5:0回、AL6:1回 |
|-----------------------------|--|
| 達成目標 | ・建築材料は、建築物を構成する基本要素であり、将来実社会に出てからも、建築物の設計・工事監理を 行ったり、あるいは施工管理を行ううえで、必要最低限理解しておかねばならないものである。これらを 踏まえ、達成目標を以下のとおりとする。なお、これら目標を達成することで、一級建築士受験のための |
| | 基礎力を身につけることが可能となる。 1) 木材、鋼材、コンクリートといった建築物に用いられる構造材料の用語とその意味の把握(基礎) 2) 各種構造材料の種類、特徴、諸性質に対する理解(基礎) 3) 各種構造材料の適用可能な範囲や用途に対する理解(基礎) 4) 各種構造材料に関するJIS規格とその概要に対する理解(基礎) 5) コンクリートの調合設計ができる技量(応用) 6) 構造材料を適材適所に使い分けできる技量(応用) |
| 評価方法・フィードバック | ・上記目標まで到達したかを見極めるためレポートと期末試験を課し、その合計点で成績を評価する。 ・レポートと期末試験の配分は、20%:80%とする。 ・原則として、レポート等のフィードバックは次回以降の授業内で実施する。 |
| 評価基準 | ・レポートと期末試験の合計点(100点満点)が60点以上の者に単位を与える。 ・秀:100~90【目標1~6】、優:89~80【目標1~5】、良:79~70【目標1~4】、可:69~60【目標1~3】、 不可:59以下【目標1~2】 |
| 教科書・参考書 | ・教科書として次の書籍を指定する。 1) 橘高義典他著: 初学者の建築講座 建築材料(第二版)、市ヶ谷出版社・参考書として次の書籍を推薦する。 2) 野口貴文他著「ベーシック建築材料」、彰国社 |
| 履修条件 | ・特になし。 |
| 履修上の注意 | ・各回の講義用資料は、i-Learnにアップする。 ・講義用資料は、教科書の内容を補うとともに、実務で役立つ情報を盛り込んでいるので、講義終了後で再度 読み込んで理解しておくこと。 ・建築物に使われる様々な材料について興味を持ち、実際の建築物において、どのような材料がどこに使われ ているのか、積極的に「観る」姿勢をもって臨むこと。 |
| 準備学習と課題の 内容 | ・第1回の講義までにシラバスを熟読し、各回の講義内容や目標について理解しておくこと。 ・各講義に先立ち、教科書の該当ページを読み、興味がある材料であれば各自で参考資料やネットなどを通じ て調べ(1時間程度)、講義の終了後にi-Learnにアップした講義用資料で復習する(1.5時間程度)ことで、 各回に定めたゴールをクリアする。 ・現存する様々な建築物にどのような材料が、どこに、どのように使われているのか、実際の建物をよく観察 し、その使用方法や使用状況について自分自身で考えること。 |
| ディプロマポリ シーとの関連割合 (必須) | ・知識・理解:50%、思考・判断:30%、関心・意欲:10%、態度:10% |
| DP1 知識・理解 | |
| DP2 思考判断 | |
| DP3 関心意欲 | |
| DP4 態度 | |
| DP5 技能・表現 | |